

交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会
東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会（第10回）
議事概要

1. 日時・場所

平成27年7月27日（月）14時00分～16時30分
中央合同庁舎2号館共用会議室2A・2B

2. 出席者

委員（敬称略）

家田仁、伊藤香織、岩倉成志、加藤浩徳、岸井隆幸、竹内健蔵、富井規雄、村木美貴、山内弘隆

ヒアリング説明者

・相模原市

副市長 小星 敏行
都市建設局長 野村 謙一
都市建設局まちづくり計画部長 森 晃

・千葉市

都市局長 河野 俊郎
都市局都市部長 谷津 隆之

・千葉県

総合企画部長 鶴巻 郁夫

・東京都

東京都技監 安井 順一
都市整備局理事 佐藤 伸朗

3. 議事概要

東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関するヒアリング

○相模原市

（説明概要）

- ・ 相模原市は、リニア中央新幹線と圏央道の交点として、国内各都市へのアクセスが可能となるとともに、羽田等の空港へのアクセス性にも優れた、グローバルネットワークにつながる都市となる。首都圏南西部全体の持続的な発展をリードするプラットフォームを目指す。
- ・ 高速交通のハブ、産業・知財の集積、新たな拠点といったポテンシャルを活かし、「未来を拓くさがみはら新都心」として、広域交流拠点のまちづくりを推進する。
- ・ 広域交流拠点機能を支えるため、広域交通と圏域交通の円滑な接続が重要と考えている。速達性と安定性などに優れた都市鉄道ネットワークの充実や、鉄道とバスとの連携拠点として駅のターミナル機能の充実が必要である。

(主な質疑応答)

- ・ 橋本駅周辺地区と相模原駅周辺地区のまちづくりについて、どのような違いがあるのか。
→ 橋本駅周辺地区は様々な企業が立地しているため産業を中心としたまちづくりを行っている。相模原駅周辺地区は官公庁が集積しているほか、今後相模総合補給廠返還地に業務機能を誘致したいと考えている。

○千葉市

(説明概要)

- ・ 千葉市における鉄道サービスの現状及び今後のあり方について説明があった。

(主な質疑応答)

- ・ アクアラインを利用したバスが多く運行されているが、今後の鉄道とバスとの分担はどう考えているか。
→ 千葉市から東京都へのアクセスについては、鉄道の分担率の方が大きいと考えている。
- ・ 京葉線の駅はデザインが殺伐としているが、千葉市としては、今後どのようなコンセプトでの整備が必要と考えているか。
→ JRは京葉線をブランド路線として整備しようとして取り組んでいる状況であり、千葉市としても引き続き検討していきたい。

○千葉県

(説明概要)

- ・ 千葉県は、東京圏の国際競争力を下支えする重要な役割を担っている。
- ・ 「人口減少・少子高齢化」、「観光立国の推進」、「国際的な都市間競争の激化」といった社会情勢を踏まえ、首都圏の国際競争力のさらなる強化を支える都市鉄道政策を推進すべきである。

(主な質疑応答)

- ・ 「人口減少・少子高齢化」を踏まえて首都圏の国際競争力のさらなる強化が必要だというのは、具体的にはどのような論理に基づくのか。
→ 人口減少・少子高齢化を踏まえると、今後は労働力の確保が重要であり、そのことにより首都圏の国際競争力の強化につなげていくことが必要だと考えている。
- ・ 千葉県は河川に囲まれている地域だと認識しているが、荒川等が氾濫した際など、災害時の対応についてどのように考えているかご意見を伺いたい。
→ 千葉県としても河川の災害対策は重要だと認識しており、例えば防風柵をつけてもらうなどJRと協力を進めている。また、帰宅難民対策や代替ルートの確保等についても検討を行っているところ。

○東京都

(説明概要)

- ・ 今後も東京の持続的な発展を図るためには鉄道ネットワークの充実が重要である。なお、社会

経済情勢の変化も勘案し、2040 年代を見据えた「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」を検討中である。

- ・ 都は、次期答申に向け、平成 26 年 5 月に学識経験者等で構成する委員会を設置し、都における今後の鉄道ネットワークの在り方等について調査検討を進め、本年 7 月にその検討結果を取りまとめた。
- ・ その結果、「整備について優先的に検討すべき路線」を 5 路線、「整備について検討すべき路線」を 14 路線抽出した。
- ・ 本結果について、答申に反映させていただきようをお願いしたい。
- ・ ターミナル駅など交通結節点における複雑な乗換や混雑の改善、バリアフリー化の推進などにより、高齢者や外国人など様々な利用者の安全で快適な移動を確保していく。
- ・ 交通結節機能の充実にあたっては、関係者（自治体、事業者、施設管理者）で構成する協議会の設置等を通じ、「駅まちエリアマネジメント」を推進する。

（主な質疑応答）

- ・ 東京都の問題意識として、国際競争力、オリンピック・パラリンピック等、都心部を意識しているように思えるが、都心部以外で提案されている路線はどう関係しているのか。
 - 少子高齢・人口減少社会への対応を重視している。郊外においても公共交通を利用して交流人口が増えることで、都市の活力につながっていくものと考えている。
- ・ 「駅まちエリアマネジメント」における東京都の役割はどのようなものか。オリンピック・パラリンピックに向けたサイン統合の検討の考え方・スケジュール如何。
 - 東京都が中心となって関係者が同じ方向に向くようにしていきたいと考えている。まずは新宿駅を皮切りに協議会を設けたところ。また、多言語表記については、昨年度策定された「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」に基づいて進めていく。その他のサインについても協議会での協議等に基づいて関係者間で統一感のあるものにしていくことになると思う。
- ・ ロンドンオリンピックでは、オリンピック開催にあわせて空港アクセス整備を実施していた。オリンピックにあわせて事業を進めることが重要だと思うが、東京都はどのように考えているか。
 - 本小委員会の中間整理にもあるが、各空港アクセス路線も含め、今回提案した鉄道の整備事業はいずれもオリンピックには間に合わないと考えている。
- ・ 近年、環状方向も含めた首都圏の道路ネットワークの整備が進んでおり、鉄道を取り巻く環境が変わってきているが、長い目で見た将来的な課題として、鉄道整備のあり方についてどのように考えているか。
 - 鉄道ネットワークも含めて、東京の将来像について、2040 年代を見据えたグランドデザインの中で示していきたい。

東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会 中間整理

- ・ 「平成 27 年度第 1 回（第 12 回）鉄道部会・第 9 回東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会 合同会議」における指摘事項を踏まえた修正について、了承された。

以上